



みどり



88号 『失語症』

2015年7月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

“失語症”とは

ことばが良く理解できない、思ったようにことばが出ない、そのような症状によりコミュニケーションに支障をきたしている状態を失語症といいます。

失語症は、脳梗塞や脳出血等により、脳の言語中枢が損傷されると起こります。認知症の進行により、脳の言語中枢が障害されて失語症をきたすこともあります。

失語症になると、聴く・話す・読む・書く等、すべての言語モダリティーが障害されます。呂律が回らない等で、話すことのみ障害されている状態は構音障害と言い、失語症とは異なります。構音障害は、言語理解は良好で、文字でコミュニケーションが成立します。

失語症の症状

失語症になると、言語機能に様々な問題を引き起こします。

≪ 聴覚的理解の低下 ≫

ことばを聴いて理解する能力が低下します。相手が何を言っているのか、理解しにくくなります。

≪ 喚語困難 ≫

言いたいことばが出てきにくくなります。私たちも加齢によりことばが出てきにくくなりますが、それが病的に顕著になります。

≪ 保続 ≫

場面・状況・刺激が変わっても、以前話したことばを繰り返してしまいます。

≪ 錯語 ≫

言いたいことばが異なることばとなって出てきてしまいます。錯語の中にも、様々な種類があります。

【 音韻性錯語 】

単語の音を誤って話してしまう症状。例：『みかん』を『みたん』、『つくえ』を『くくえ』と話してしまう等。

【 語性錯語（意味性錯語） 】

言いたい単語と異なる単語を話してしまう症状。例：『みかん』を『りんご』、『つくえ』を『いす』と話してしまう等。

【 新造語 】

日本語にはないことばを話してしまう症状。例：『みかんが食べたい』を『あたらを食べたい』と話してしまう等。

【 ジャルゴン 】

新造語が頻発し、まったく意味のないことばの羅列を話してしまう症状。例：『あがかちぐべぼらにぐたほ』と話してしまう等。

≪ その他 ≫

錯読・錯書・反響言語・迂回反応などの症状もあります。

失語症のタイプ

失語症には、ブローカ失語症(運動性失語症)、ウェルニッケ失語症(感覚性失語症)、伝導失語症、健忘失語症(失名詞失語症)、全失語症、超皮質性運動失語症、超皮質性感覚失語症、超皮質性混合失語症等があります。それぞれ、症状によってタイプ分類されています。

運動性失語症

【聴く】聴覚的理解は比較的良好で、簡単な日常会話は大きな問題はありません。複雑な文章になると、理解が困難になります。

【話す】喚語困難により、非流暢性発話となります。発話のプログラミングの問題である発語失行を伴う例を多く認めます。“はい”や“いいえ”，簡単な単語等では発話可能なこともありますが、文章では発話しづらくなります。

【復唱】ブローカ失語症では、復唱は困難になりますが、超皮質性運動失語症では復唱は比較的保たれています。

感覚性失語症

【聴く】聴覚的理解が障害され、相手のことばが理解しにくくなります。単語の意味も理解できないことが多くなります。

【話す】発話は流暢で多弁になることもあります。しかし、錯語が頻発し、コミュニケーションは成立しづらくなります。錯語は自身ではほとんど気付くことができません。

【復唱】ウェルニッケ失語症では、復唱は困難になりますが、超皮質性感覚失語症では復唱は比較的保たれています。

全失語症

聴く・話す・読む・書く全ての言語モダリティーが重度に障害され、コミュニケーションは困難となります。超皮質性混合失語症では、復唱のみ保たれています。

伝導失語症

【聴く】聴覚的理解は良好です。

【話す】音韻性錯語が頻発します。音の誤りを自覚しており、誤りを自己修正しようとする接近行為が目立ちます。

【復唱】復唱は重度に障害されます。

健忘失語症(失名詞失語症)

【聴く】聴覚的理解は良好です。

【話す】喚語困難が著明となります。「あれ」「それ」等を多く使用し、内容のない発話となります。

【復唱】復唱は良好です。

失語症者とのコミュニケーション方法

読む・書くのモダリティーが障害されているため、50音表は役に立ちません。絵でコミュニケーションを図るコミュニケーションノートは有効となる場合があります。

知的機能が保たれている場合もありますので、子ども扱いしないように心がけたいものです。また、難聴とは別の問題なので、大きな声で話しかけることは無意味です。

失語症者とのコミュニケーションを少しでも円滑にするためには、①表情を豊かに、②口元を見せながら、③大きなジェスチャーを交えて、④文章は短く分かりやすく話すが良いと思います。心に余裕を持って接することも大切です。

失語症のリハビリ

失語症に対しては、言語聴覚士によるリハビリが有効となります。失語症は、歩行動作や手指で行う作業活動等の運動能力と違い、発症から数年経っても僅かずつですが改善していくことがあります。もし失語症でお困りのことがあれば、当院の医師や言語聴覚士にお気軽にご相談ください。

(文責：岩崎 直人)